

29年8月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成29年 8月1日～ 29年8月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
8月分の回答企業数は11社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/8月	9月	10月
入荷動向	スギ・ヒノキ	5.6	5.6	5.6
	マツ	△ 20.0	△ 25.0	△ 15.0
	広葉樹	△ 45.5	△ 31.8	△ 31.8
消費動向	スギ・ヒノキ	△ 12.5	0.0	0.0
	マツ	△ 22.2	△ 16.7	△ 16.7
	広葉樹	△ 30.0	△ 25.0	△ 25.0
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 12.5	0.0	12.5
	マツ	△ 33.3	△ 33.3	△ 16.7
	広葉樹	△ 40.0	△ 35.0	△ 35.0

・チップ用国産原木の入荷状況は、スギ・ヒノキは3カ月連続増加。マツ、広葉樹とも3カ月連続減少。
・消費動向は、スギ・ヒノキは8月の減少から9月、10月は横ばいに。マツ、広葉樹とも3カ月連続減少。
・在庫動向は、スギ・ヒノキは8月の減少から9月は横ばい、10月は増加に。マツ、広葉樹とも3カ月連続減少。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	29/8月	9月	10月
スギ・ヒノキ	0.0	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	△ 10.0	△ 5.0	△ 5.0

・チップ用国産原木の価格動向は、スギ・ヒノキ、マツ類とも保合い、広葉樹は弱含み。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・仕入は、スギ・ヒノキ、マツともシステム販売や森林再生事業の材が入荷したため増加傾向。広葉樹は、業者が森林再生事業等に移行しているためやや減少気味。在庫は、スギ・ヒノキは5.5カ月で横ばい。マツは3.5→3.0カ月でやや減少。広葉樹は2.5→2.0カ月でやや減少（東北）。
・国有林のシステム販売によってパルプ材が確保できたため、入荷は大幅に増加。製紙会社の使用が低迷しているため、消費はほぼ横ばい状況。入荷が増えた分、在庫は大幅に増加（関東）。
・スギ・ヒノキは、梅雨が終わりやや仕入増加が予想される。消費、在庫とも変動なし（中国）。
・仕入、消費とも天候が炎天下、害虫の影響にて出荷量は減少。翌月・翌々月は時期が良くなることからやや増加見通し。仕入れの動きにて在庫も同じ見通し。
・仕入は、7月の広葉樹入荷は少なめなので、8月は対前月比やや増加で通常並になると予想している。消費は針葉樹、広葉樹とも計画通りの出荷で横ばい。針葉樹在庫は入荷・生産とほぼ同量、広葉樹は入荷減から在庫減となった（九州）。
・スギ・ヒノキ、マツの原木は、仕入・消費・在庫ともなし。広葉樹はチップ取引先の生産調整により原木入荷停止し、7月から消費を縮小（九州）。

(原木価格)

・原木価格は、全樹種とも高値安定（東北）。
・広葉樹チップが一部の製紙会社で受入れを大きく抑制している。この影響がしばらく続きそうだ（関東）。
・広葉樹原木は、需要が減少したことから値下げとなっている（関東）。
・原木購入価格は変動なし（中国）。
・製紙用・燃料用にかかわらず、針葉樹・広葉樹ともしばらく仕入価格は変わらないと予想（九州）。
・針葉樹原木は購入なし。広葉樹原木価格は横ばいで推移（九州）。

29年8月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/8月	9月	10月
生産動向	スギ・ヒノキ	△ 12.5	0.0	6.3
	マツ類	△ 27.8	△ 22.2	△ 16.7
	広葉樹	△ 45.0	△ 35.0	△ 35.0
出荷動向	スギ・ヒノキ	△ 14.3	0.0	7.1
	マツ類	△ 25.0	△ 18.8	△ 18.8
	広葉樹	△ 44.4	△ 33.3	△ 33.3
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 7.1	0.0	0.0
	マツ類	△ 25.0	△ 31.3	△ 25.0
	広葉樹	△ 44.4	△ 44.4	△ 44.4

・木材チップの生産動向は、スギ・ヒノキは8月の減少から9月は横ばい、10月は増加に。
 ・出荷動向は、スギ・ヒノキは8月の減少から9月は横ばい、10月は増加に。
 ・在庫動向は、スギ・ヒノキは8月の減少から9月、10月は横ばいに。
 ・マツ類及び広葉樹の生産・出荷・在庫動向は3カ月連続減少。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目	29/8月	9月	10月
スギ・ヒノキ類	0.0	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	△ 5.0	△ 5.0	0.0

・木材チップ出荷動向はスギ・ヒノキ類、マツ類とも保合い。広葉樹は弱含み。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

- ・荷動きは、スギ・ヒノキ類、マツ類とも変化なし。広葉樹は在庫増により出荷量は微増（東北）。
- ・生産、出荷、在庫とも計画数量で変動なし（中国）。
- ・スギ・ヒノキは製紙用・燃料用とも計画通りほぼフル生産・消費の状態。チップ在庫はない（九州）。
- ・紙パルプ用広葉樹チップを生産計画に基づき生産。8月は減産。消費は取引先の生産計画により出荷量は減少状態。広葉樹チップの当月在庫はなし（九州）。

(木材チップ価格)

- ・広葉樹チップ価格が5月から下落している。しかし、運賃は下げることができないので厳しい状況（関東）。
- ・原木と同様に、広葉樹チップは値下げとなっている（関東）。
- ・チップの出荷価格も変動なし（中国）。
- ・針葉樹・広葉樹とも、しばらく価格は変わらないと予想（九州）。
- ・広葉樹チップ価格は横ばいで推移（九州）。